



# 神は存在するのか

これは、私たちが人生を考える上で、最も重要な問いの一つです。神の存在を信じるか否かは、人生の意味、人間性、最終的な運命などに対する見方に、大きな影響を与えます。

世界の主要宗教の中には、人格を持った神を信じ崇拝しないものがあります。代わりに、神とは何らかの「至高の实在」、「究極の原理」、宇宙の根底にある「絶対者」である、と捉えているのです。通常、そのような考え方においては、神は人間のさまざまな必要や状況から距離を置いた、無関心な存在であるとみなされています。しかし、聖書によれば、神は私たち一人ひとりのことを個人的に心から気にかけて、父親がその子どもを思いやるように、ご自身を愛する者を思いやられるのです。(参照：詩篇103:13)

他にも、自然の中に驚くほどの素晴らしさや調和があることを認めて、被造物自体が神に違いないと結論づける宗教もあります。見えるものはすべて神の現れ、あるいは神の一部であると言うのです。神は、すべてを造られた大いなる力なので、ある意味では、広大な宇宙の銀河の数々から、微小な原子の結合力に至るまで、神はそのすべてのものの一部であり、すべてのものは神の一部であるとも言えます。しかし聖書は、私たちはこの創造主を崇拝し、じかに知り、神ご自身と生きた関係を築くことができると教えています。

神は、遠く離れたところにいる、私たちに無関心な存在ではありません。人格を持っておられ、被造物である私たちと関係を持ちたいと望まれています。神は聖書の中にあるご自身の言葉を通して、自らを私たちに表してこられました。私たち一人ひとりに関心を持っており、魂の救いによって、私たちが神と共に永遠に生きることができるようになってくださったのです。

神は、私たちが神から隔てられた状態に苦しむことは望まれません。「神は愛」なので、私たちの心は、神と神の愛を知らずして、真に満たされることはないのです。(1ヨハネ4:8)ですから、私たちが神を知るのを助けるために、また、神の永遠の命と救いを私たちにもたらすために、2千年近く前、

神はご自身の子であるイエスを地上に送られました。

イエスは、神の御霊によって奇跡的に母親の胎に宿され、目に見えない大いなる創造主である神がどのような方なのかを私たちが知れるように、神の生きた姿となってくださいました。それは、愛の神の姿です。イエスは、あらゆるところに行って、良い行いをし、人々を助け、皆のための神の大いなる愛について教えてくださいました。

そして、世界に救いの良き知らせを告げ知らせるという任務を完了すると、全人類の罪のために、自らの命を十字架上で捧げてくださったのです。その後、遺体が墓に納められて3日目に、イエスは死からよみがえり、死と黄泉に対して永遠に勝利を収められました。

「神はそのひとり子[イエス]を賜ったほどに、この世[あなたや私]を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ3:16)

神は存在します。そして、あなたと個人的な関係を結び、今ここで、そして永遠にわたって、あなたの人生の非常に現実的な部分になることを望んでおられるのです。聖書を読めば、神について、また、人類に対する神の愛や、あなた個人の人生に対する神の計画について、さらに深く知ることができます。

今、イエスはあなたの心のドアの前に立ち、あなたがドアを開けて人生にイエスを招き入れるのを待っておられます。(参照：黙示録3:20) そのためには、次の祈りを心から祈ってください。

「イエスさま、どうか私の過ちをすべておゆるしてください。あなたが私のために死んでくださったことを信じます。心の扉を開いて、あなたをお招きしますので、あなたの聖霊で私を満たし、私があなたのことを知れるようにしてください。そして、真理の道に私を導いてください。アーメン。」